

EU Indicators

欧州経済指標コメント：10-12月期ユーロ圏GDP改定値

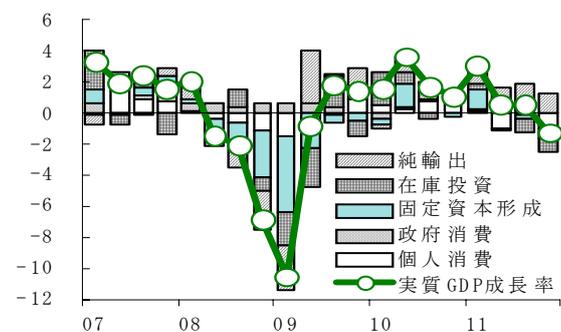
発表日：2012年3月7日(水)

～主要需要項目が総崩れ、先行きは一方的な落ち込みを回避～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

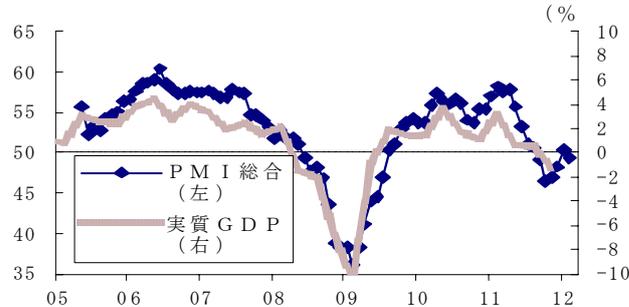
- ・ 昨年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率の改定値は前期比▲0.3%、同年率▲1.3%と速報段階から不変で、2009年4-6月期以来のマイナス成長を記録。新たに公表された需要項目別の内訳は、個人消費（前期比▲0.4%、2四半期振り減）、政府消費（同▲0.2%、2四半期連続減）、固定資本投資（同▲0.7%、3四半期連続減）、在庫投資寄与度（同▲0.2%ポイント、2四半期連続減）、輸出（同▲0.4%、10四半期振り減）、輸入（同▲1.2%、10四半期振り減）の主要需要項目が軒並み落ち込んだ。外需寄与度（同+0.3%ポイント）が成長率を下支えしたが、これは輸出の落ち込みが輸入に比べて軽微にとどまったからに過ぎない。財政緊縮措置の強化、債務危機の深刻化と金融環境の悪化に伴う投資・消費活動の萎縮、世界的な景気減速懸念の台頭から、経済活動全般が停滞色を強めた。
- ・ 1-3月期入り後の景気は、ユーロ圏のPMI総合指数が景況判断の分岐点である50を挟んで一進一退の推移を続けており、再び小幅マイナス成長となる公算が大きい。ただ、3年物LTRO実施以降の金融市場の緊張緩和や財政再建や構造改革に向けた欧州の政策当局の取り組み強化を受け、債務危機に対する不安心理が幾分後退しており、一方的な景気の落ち込みには歯止めが掛かる公算が大きい。6月末を期限に高い自己資本比率の達成を求められた銀行の貸し渋り懸念も、ECBによる潤沢な流動性供給を支えに、当初想定されたような深刻な信用収縮は回避される公算が高まっている。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏：PMI総合指数と実質GDP成長率



注：実質GDP成長率は前期比年率。

出所：Markit、Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

| | 名目GDP | 実質GDP | 内需 | | | | 外需 | | | |
|------------|-------|-------|--------|------|--------|------|--------|--------|------|------|
| | | | 個人消費 | 政府支出 | 固定資本投資 | 在庫 | 輸出 | 輸入 | | |
| 10/1-3月期 | 2.4 | 1.6 | (1.9) | 1.0 | ▲1.7 | ▲1.8 | (2.1) | (▲0.3) | 13.1 | 14.6 |
| 10/4-6月期 | 4.8 | 3.6 | (2.6) | 0.4 | 0.8 | 7.8 | (0.8) | (1.0) | 19.7 | 17.7 |
| 10/7-9月期 | 2.8 | 1.7 | (0.6) | 1.3 | 0.3 | 0.7 | (▲0.3) | (1.0) | 8.8 | 6.5 |
| 10/10-12月期 | 1.6 | 1.1 | (0.9) | 1.6 | 0.2 | ▲1.1 | (0.2) | (0.2) | 6.2 | 6.0 |
| 11/1-3月期 | 4.9 | 3.1 | (1.9) | 0.2 | 0.3 | 6.8 | (0.4) | (1.2) | 5.4 | 2.6 |
| 11/4-6月期 | 2.3 | 0.5 | (▲0.8) | ▲1.8 | 0.3 | ▲0.4 | (0.2) | (1.4) | 4.9 | 1.8 |
| 11/7-9月期 | 2.0 | 0.6 | (▲0.8) | 1.0 | ▲0.7 | ▲1.1 | (▲0.9) | (1.3) | 5.7 | 2.8 |
| 11/10-12月期 | 0.1 | ▲1.3 | (▲2.5) | ▲1.7 | ▲1.0 | ▲2.6 | (▲0.8) | (1.3) | ▲1.4 | ▲4.6 |

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。